野間宏

作品集

近代文學社刊
河出書房發賣

野間 宏

作品集

近代文學社

昭和二十三年十一月一日印刷
昭和二十三年十一月五日發行

野間宏作品集

定價百八拾圓

著者　野間宏
發行者　本多秋五
東京都千代田區神田神保町一ノ三
發行所　近代文學社
會員番號A二一一〇四九
印刷者　加藤新
東京都千代田區神田小川町三ノ八
發賣所　河出書房
電話神田(25)二三五一番

印刷所　文化印刷株式會社

目次

小説

顔の中の赤い月……五
地獄篇第二十八歌……五五
崩解感覺……九〇

評論

ジイドのラフカヂオ……一八五
マダム・ボヴァリイ……二〇〇

詩

歴史の蜘蛛……二二七
火の縛め……二三五
星座の痛み……二三七
祝聲……二三九
火鶏……二四一
幸福は瀧の形をなして……二四三
壺を渡す……二四五
鋪道に……二四七
光りの顔……二四九
彈みもつ露……二五一
別離……二五三
君の肉眼の上の一噴きの涙は……二五五
頭蓋……二五九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

詩論

詩に於けるドラマツルジイ……二六五
虎の斑……二八〇
前進感覺……二九一

野間宏作品集

分類番号 913.6
著者記号 N.94
巻册番号
原簿番号 3181
登録 1951年 9月 15日

小　說

顔の中の赤い月

未亡人堀川倉子の顔のなかには、一種苦しげな表情があつた。勿論彼女の顔は、日本の女がときに持つてゐる、あの幾らか冷やかな輪廓の線の中に柔かい肉感をとぢこめてゐるといふやうな所謂近づき難い高雅な美を形づくつてゐる種類のものではなかつたが、それは、又、その眼や鼻や口のどれか一つが全體の諧調を破ることによつて魅惑をつくり出してゐるといふやうな種類のものでもなかつた。その顔は顔そのものとしては、どちらかと言へば普通にととのつた、流通性のある美しさに屬するものにすぎなかつたが、確にその

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

顔の中には生命の伸長を中途で何ものかのために無理強ひに奪ひ取られて、そのために、どこか歪んでゐるといつたやうなものがあつて、それが、その顔に、異常と言へる程のエネルギーにみちた美を與へてゐるのであつた。そして彼女の顔の中のその苦しげなものは彼女の白く廣い額と、よく外界の變動に變化するいくらか肉の厚みの足りない口邊とにじみ出るやうに現れてゐるのだつた。

北山年夫は、彼女の顔を見る回數が次第に多くなるにつれて、その顔の表情がだんだん自分の心の深みに、はいり込んで來るのを認めた。彼は一年ばかり前、南方から歸つて、東京驛の近くのビィルディングの五階にある、知人の會社に席を置いてゐたが、彼はよく廊下やエレヴェーターの内や便所の入口などで彼女に出會つた。そしてその度に、彼は彼女の顔の中に、その一種不可思議な苦しみの表情を見出した。彼は彼女の顔が、彼の心の内にある苦しみに、或る精神的な甘味と同時に痛みの伴ふ作用をするのを認めた。

彼は彼女の年齢を判定することができなかつた。といふよりも、彼女の年齢に疑問をもつことがなかつたのである。といふのは、彼女の美しさが、最初から彼に彼女の年齢をかくした。勿論それは、彼が可成り長い間内地の女を見ることなしにすごしてきた故でもゐ

つたらうが、又、彼が過去に或る苦い經驗をもつてゐて、常に女から遠ざからうと決心して暮してきたからでもあつたであらう。そして彼は彼女が一度結婚したことがあるなどといふことには氣づきもしなかつたのである。彼は彼女の年齡を實際よりはるかに若く見つもつてゐた。それ故、彼には、日本の女には稀な、自分の內容をはつきりと保持し表現してゐるやうに思へる彼女の顏が、どうしてそのやうな若い年齡から生れることができたのかと不思議に思へた。

彼女は廊下を一つへだてて、彼の事務室の向ひ側にある八千代新興產業會社にゐた。兩側に同じ形の事務所のならんでゐる長い廊下は暗く、彼が彼女に出會つたり、すれちがつたりする時間は、ごく短いものであつたので、彼は彼女の顏をこまかく觀察するといふやうなことは出來なかつたが、彼は廊下の暗い空氣の中に浮き出るやうにして近づいて來る彼女の顏や、エレヴェーターの中の多くの人々の背に挾まれた彼女の顏に面と向つたとき、日沒前の風景の中で、くつきり浮び出た山頂の線や地平線のきらめきが、一瞬光度をたかめ靜けさにみちた空氣の中に消えんとする最後の異常に强い光を放つときのやうな、美のエネルギーが彼女の顏から彼の方をめがけて、放出されるのを感ずるのであつた。彼は最

初はそのやうな彼女の顔ばかりに氣を取られてゐたが、最近になつて彼は彼女の顔の表情の中にあるその一種苦しげなものが、彼女の顔に反してぢみな黒つぽいスーツをつけた餘り大きくない體全體ににじみ出てゐるのを認めた。そしてその彼女の苦しみに濡れてゐるやうな姿が、自分の過去の苦しい思ひ出を引き出し、甦らせてくるのを彼は感じた。確にその顔は彼の內部の苦しみに適合するやうな美をもつてゐたが、彼には、何故に、彼女の顔がそのやうに自分の心にぴつたりよりそふのか不可解であつた。しかし、とにかく彼女のその顔は彼の心の苦しみに觸れた。彼はときに階段を下りながらふと自分の胸の邊りに何か自分を締めつけるものがあるのをかんじた。彼には最初はそれが何であるのか解らなかつたが、それは彼の心の底の方に沈んでゐる彼女の苦しげな表情の印象であつた。彼の心をしめつけるものの中心に彼女の顔があることを彼は感じた。そして彼は、自分の胸の中にある彼女のその顔をじつとみつめた。すると彼の心は痛み、何か漠とした不安に把はれ、彼は自分の足が、自分の體の下で、自分の意志を受けとることを肯じないといふやうな感じに陷るのだつた。そして彼の胸の中を突如として、正體の知れない不可解な暗い感情の稻妻がとほりすぎる。それは彼の記憶の最深部から、ひるがへるやうにして、上つて

きて、その如何にしても現在の彼の力ではふせぐことの出來ぬやうな威力を彼の上に發揮して彼を打ちたほす。「ああ、いけない。」と彼は瞬間立ちどまる。「いやだ。いやだ。」と頭を振る。しかし彼はどう處理していいか解らぬやうな混沌とした思ひにゆすぶられるのである。そして彼は自分自身で肯定することの出來ぬやうな人生否定、人間否定の言葉が自分の內部から、ぶち上つて來るのを認めた。それは堪へ難い瞬間であり、彼の身體は指の先の邊りまで、彼の身體を通過し去る暗い電光によつて、內部から輝し出されるやうに思へる。「さうぢやあない。俺は決してさう考へてゐるんぢやあない……俺は人間否定を行つたりしはしない……俺はもつと素直な人間なのだ。俺は單純な人間で、俺はもつともつと人間といふものを信じてゐる。」と彼は自分に言ひきかせる。しかし彼が野戰の戰鬪に於て受け取つたあの日常の人間とは全く別個の人間の印象は、彼の中に甦り、彼は人間の中に齒をむきだして存在する動物が、自分の上に襲ひかかつてくるのを感じるのである。彼は戰場で自分の皮膚の中に、戰友達が刻印した冷酷な齒の跡が、いまもはつきりのこつてゐるのを認め、それを思ふと彼自身が又戰友達の肌の中にそれと同じやうな齒形を殘してゐるにちがひないと解り、戰場で生命をおびやかされた人間達が演ずる利己的な姿

にぞつとするのだつた。

堀川倉子の姿が、北山年夫にそのやうな人間否定の聲を上げさせる過去の戰場の思ひ出を甦らせるといふのも、彼のその戰鬪の思出ひの中には、堀川倉子の姿に照應するやうな一人の苦しげな女の姿があるからなのであつた。そして彼女の姿をみてゐると、彼は一人の女の姿を胸に抱きながら戰場を歩きつづけた、みじめな自分の兵隊姿がはつきりと浮んでくるのであつた。

北山年夫は以前彼が心の底からどうしても愛することの出來ない女を戀人にしてゐたことがあつた。それはいはば彼が失つた戀人の代理の戀人といつたやうなものであつた。彼が愛してゐた女ははやく彼のもとを去つてしまつてゐた。彼が愛してゐたその女は別にとりたてていふ程のすぐれた特長のある女ではなかつたが、情熱の激越な青年時代にそのやうな女に出會つたといふことが、彼の不運であつたのであつた。彼も青年の戀愛に一般に見られる、あの一つの型に從つて、自分の相手を理想化したのであつた。相手がもちもしない美點をあれやこれやとかぞへあげて祭壇にまつり上げるといふ風だつた。そして彼は家庭の反對を押しきることさへ出來ず、又彼の生活能力に不安を感じて、別離を申し出

たその女を憎みながらも、いつまでもそれを心の中に殘してゐた。そのとき、彼の次の戀人が彼の前に現れたのである。彼の務め先の或る軍需會社の女事務員をしてゐたその女は彼を愛した。彼女は彼の以前の戀人とは反對に、彼にただちにすべてを渡した。それは細面の、頸と腰の細い病弱なしかし聰明な、彼の心理と彼の教養とによりそふものをもつた女であつた。彼は既に以前の戀愛の失敗の苦しみを自分自身で支へるだけの力を得てゐたが、と言つても、やはりいつまでも孤獨に堪へることの出來るやうな人間でもなく、自分を愛する女を身近にもつてゐることによつて得るあの虚榮心の滿足を打ちすてる意志力もなく、從つて彼女の愛をしりぞけるだけの決斷力といふものもなかつた。そして彼を信じきり、彼にすべてをあたへた彼女の愛を、それが餘りにもたやすく彼にもたらされたが故に、かへつて彼がその後の生涯のうちに一度と得ることの出來ぬほどの値打のあるものだとは見分けることが出來なかつたのである。彼は彼女を戀人の代理として取扱ひ、さういふ風に彼女を愛した。確に彼女を見る彼の眼は冷酷であつた。弱い彈力のたりない彼女の胸の肌にふれながら、彼は自分の心が冷々とするのを感じるのだつた。彼の眼は彼女の乳房を彼の以前の戀人の柔軟な肉をとぢこめてゐる乳房と比べてゐた。そして彼は何か不足

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo